

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2016年4月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第573号

アメリカに40年近く住んでいたが、その間に「リーチングアウト」という言葉をしらばしき聞いた。何かを必要とする人たちに、こちらから出向いて行って、助けになろうとする気持ちや行為を表す場合が多い。「手を差し伸べる」とも訳せるだろう。待つ姿勢ではなく、こちらから出ていく気持ちを強く表している。

教会も盛んにリーチング

アウトを実践している。コミュニティで困っている人たちにシエルターや食料を提供する、災害が起きれば救援隊を組織して現地に向かう、中南米の貧困地域の学校に継続的な財政支援をするなど、多彩なリーチングアウトを行っている。それらの行為はごく自然な形で行われているが、そこには暗黙のうちに「神が望まれることをやるう」と言う気持ちがあるように思われる。リーチングアウトは彼らにとつて、ごく自然な日常的行為と言ってもよい。

わが関西セミナーハウス活動センターも、「福祉」「いのち」「社会」「開発教育」といった分野にわたつて、多彩なプログラムを提供しているが、これも新しい知見を求めようとする人たちにリーチング

アウトしようとする努力だと見える。社会が複雑化し、先を読むのが難しくなっているいま、私たちがどう生き、どう行動すれば良いのかを知りたいという人たちが増えている。受け身的に「知りたい」というのみでなく、「同じ関

リーチングアウト

関西セミナーハウス活動センター運営委員

網野 俊賢



かが問われている。

しかしさらに坂を上がつて、セミナーハウスまでの足を伸ばして下さる人たちの数は、私たちが願っているもの

心を持つ人たちと議論したい」「思いを共有したい」と言う人も増えているはずだ。そうした求めに関西セミナーハウス活動センターがどれだけリーチングアウト出来る

新しい知見を求めている人たちとは別のがはずれたところに

リーチングアウトしようとしているのかもしれない。正しい場所にリーチングアウトはしているのだが、吸引力となる私たちのエネルギーがまだ弱く、相手に「聞きに行こう!」と思つて貰うレベルになつていないのかもしれない。あるいは私たちが提供するプログラムが、本当は求められているものと違つているのかもしれない、などと運営委員の一人として自問自答を繰り返している。

神はマーケティングという言葉が好まれないかもしれないが、私たちの活動を通じて「神が望んでおられることをやりたい」「神が思つておられることを伝えたい」という私たちの気持ちを実現するには、これからもリーチングアウトに工夫を凝らして、多くの方々に参加して頂く方法を追い求めねばならない、と自分に言い聞かせている。

(関西国際大学学長特別補佐)

シリーズ名	回数	プログラム	予定
関東フォーラム 宗教対話 I	全5回	プロット神父と『星の王子さま』を読む	第1回5月 第2回6月 第3回7月 第4回9月 第5回10月
関東フォーラム 宗教対話 II	全3回	これでいいのか日本の「キリスト教」向 谷地宣明(べてぶくろ代表)、長尾有起(北 支区宣教師)、和田芳子(児童相談所所長)	第1回9月10日(土) 第2回11月12日(土) 第3回1月14日(土)
関東フォーラム 宗教対話 III	全6回	「礼拝のためのヴォイス・トレーニング」 講師・友野富美子	第1回6月5日(月) 第2回6月12日(月) 第3回6月19日(月) 第4回6月26日(月) 第5回7月4日(月) 第6回7月10日(月)
研修・セミナー・体験交流事業			
聖書を読む講座 I	全9回	『いのちの糧の分かち合い』を著者と共 に読む 山口里子(日本フェミニスト神学・宣教 センター共同ディレクター)	第1回4月12日(火) 第2回5月10日(火) 第3回6月14日(火) 第4回7月12日(火) 第5回9月13日(火) 第6回10月11日(火) 第7回11月8日(火) 第8回12月13日(火) 第9回1月10日(火)
聖書を読む講座 II	全5回	「上林牧師と旧約聖書を読む」 講師・上林順一郎	第1回6月10日(金) 第2回7月8日(金) 第3回9月9日(金) 第4回10月14日(金) 第5回11月11日(金)
神学生交流 プログラム		第8回神学生交流プログラム 校長 関 田寛雄(教団巡回教師)、講師 石田学(日 本ナザレン神学校長)	2017年3月14~16 日

シリーズ名	回数	プログラム	予定
修学院フォーラム 社会	第1回	宗教と戦争を考える：1 旧約聖書における戦争の問題 —聖戦と聖戦(ヘレム) 勝村弘也(神戸松蔭女子学院大学名誉教授)	10月8日(土)
	第2回	宗教と戦争を考える：2 新約聖書における戦争の問題 浅野淳博(関西学院大学神学部教授)	11月12日(土)
	第3回	民意を政治に反映させる新しい試み： SEALDsとは何か 講師交渉中	12月3日(土) (仮)
	第4回	エネルギーを考える：第5回 福島原発事故収束の課題は何か 被災地の現場から 講師交渉中 技術的視点から 講師交渉中	2017年1月8日(日) ~9日(月・祝)
	第5回	政治と宗教(仮) 佐藤優(作家・元外務省主任分析官)	2017年1月28日(土)
修学院フォーラム 福祉	第1回	子どもの貧困～社会的養護の子どもとそ の支援を考える 阪野学(大阪成蹊短期大学幼児教育学科 准教授) 共催：京都YWCA	6月11日(土) 会場：京都YWCA
	第2回	いのちの終わりへの備えを考える(仮) 講師交渉中(大阪) 共催：京都YWCA	2017年2月25日(土) 会場：京都YWCA
修学院フォーラム いのち	第1回	いのちを見つめて —介護百人一首— 安森敏隆(同志社女子大名誉教授)	4月23日(土)
	第2回	花と音楽のコラボレーション —いのちをめぐるメッセージ 竹中 真(ピアニスト、作曲家)	5月21日(土)
	第3回	ピアノと賛美とお話(仮) 菅野万利子(ピアニスト)	2017年3月5日(日)
研修・セミナー・体験交流事業			
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー(協力プログラム) 主催：JICA 関西他	6月26日(日)
	第2回	地球市民を育むアクティブラーニング 橋本渉(東京大学教育学部附属中等教育 学校教諭)	7月9日(土) ~10日(日)
	第3回	政治って何なんだ!? ~日本の戦後とこ れから 白井聡(京都精華大学人文学部専任講師)	9月10日(土) ~11日(日)
	第4回	ヘイトスピーチ・わたし・社会 安田浩一(ジャーナリスト)	10月15日(土) ~16日(日)
	第5回	支配されるタネ～食料主権と持続可能な 社会 西川芳昭(龍谷大学経済学部教授)	11月5日(土) ~6日(日)
	第6回	イスラームから世界を見る～中東とヨー ロッパの今 内藤正典(同志社大学大学院グローバル・ スタディーズ研究科教授)	12月10日(土) ~11日(日)
お茶のこころと 宗教のこころ		初夏の茶室とバスで巡るフィールドツ アー(2)「京都のキリシタン史跡を訪 ねて(西ノ京エリア)」 杉野榮(日本バプテスト連盟京都洛西教 会協力牧師)	6月18日(土)
	全10回	お茶と聖書と俳句(仮) 櫻本栄次(関西セミナーハウス活動センター所長)	6月以降、毎月1回
もみじまつり		絵画展 検討中 演奏 園城三花(フルート奏者)	11月23日(水・祝)

III 関西セミナーハウス活動センター事業計画

日本社会が直面している様々な困難な問題について、キリスト教精神に基づき話し合いを深め、問題の根源的解決の道を探る。

1. 修学院フォーラム「社会」において、宗教と戦争を継続的テーマとし、戦争の根源的原因を考える。継続的テーマとしてきた「エネルギーを考える」の第5回で、福島原発事故を完全に収束させるには何が課題かを、被災地の現場と技術的視点から考える。SEALDsのような民意を政治に反映させる新しい方法について考える。佐藤 優氏と共に、政治と宗教について引き続いて考える。
2. 修学院フォーラム「福祉」において、深刻化しつつある子供の貧困の現状を知り、何ができるかを考える。いのちの終わりを迎える備えについても考える。
3. 修学院フォーラム「いのち」において、介護百人一首を通し、いのちを見つめる。ジャズピアニストとクラシックピアニストの演奏と語りを通し、いのちの輝きを味わう。
4. 開発教育セミナーにおいては、人権・平和・環境などの地球的課題を参加型学習で学び、私たちの社会のありようを考える。
5. これらに加え、京都のキリシタンの跡を訪ねる会、お茶と俳句を楽しみつつ、聖書の言葉を味わう会、もみじの美しい季節に関西セミナーハウスの景観を背景に、お茶とお箏、フルート演奏、美術を楽しむ、もみじまつりを催す。

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

2016年度事業計画

I 事業計画基本方針

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2016年度において、以下の基本方針を掲げ、事業を推進する。

1. 財団事業の展開

定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

①現在のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。

②参加者同士の対話中心の宿泊プログラムを拡充する。

③アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組む。

④得られた成果を機関紙による広報を超え、広く社会に発信する。基幹プログラムの成果は出版物として発行などし、知の蓄積を行う。

⑤キリスト教精神に基づく未だ認知の不十分な幅広い課題をプログラム化し、もってキリスト教系メディア、一般メディアの関心を高め、啓発活動を活発化する。

(2) 関西セミナーハウス

①当財団の事業展開の拠点として、公益目的事業でのさらなる活用をはかる。また、当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊研修施設を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い利用に供する。

②リピート利用者の丁寧なフォローおよび新規利用者の開拓などに取り組み、利用率の向上及び収支の改善を図る。

(3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並びに各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告する。同時に、東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページ等によって積極的な情報発信を継続する。

2) 収益事業

公益目的利用外の一般利用者、企業等へ宿泊研修施設関西セミナーハウスの貸出しを行い、その収益の一部を公益活動に資する。

3. 運営推進体制の安定化

1) 公益目的事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

2) 財団事業の適正かつ円滑な運営を図るため、諸規程の整備を進める。

4. 財政の健全化

1) 理事会に承認された予算を守る。

2) 収入不足を補うための運用基金の取り崩しは、原則として行わない。

3) 運用基金の運用は、「運用基金運用規程」および「運

用基金運用細則」に則り、安全で流動性のある財産運用を行う。

5. 賛助会員、寄附金の拡充

公益事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念を周知し、アカデミー運動を支えようとする賛助会員、寄附金の拡充を図る。

II 関東活動センター2016年度事業計画

2015年度は、関東活動センター事務所や集会室のある日本キリスト教会館の耐震補強・改修工事が行われた。そのため、関東活動センターの各事業は大きな制約を受けざるを得なかった。しかし2016年3月より、キリスト教会館が全面的に改装されて新しく出発するので、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画する。

1. 関東フォーラム「今日の課題」Ⅰとして、昨年に引き続き「セミナー自死に遭遇した人への慰めとは」を実施する。従来タブーとされがちであった自死の問題を取り上げ、教会と社会における具体的な取り組みの可能性を探るプログラムである。

2. 関東フォーラム「今日的課題」Ⅱ「古典で読む20世紀」は、昨年に引き続き、現在ではほとんど読まれなくなった先哲の様々な古典的著作を読み直し、21世紀の現在の時点でその意義を再確認することを目的としている。

3. 関東フォーラム「宗教対話」Ⅰとして、新企画「プロット神父と共に『星の王子さま』を読む」プログラムを実施する。今では古典とされるサンテグジュペリの『星の王子さま』を、長年多角的に研究してきたプロット神父と共に読みながら、「心の居場所」を失った現代の教育の問題に鋭く切り込む。

4. 関東フォーラム「宗教対話」Ⅱ「これでいいのか日本のキリスト教」は、キリスト教会の枠を越えて様々な分野で活動している若き活動家たちを招き、現代社会への問題提起を聞き、共に考える企画である。

5. 関東フォーラム「宗教対話Ⅲ」は、昨年に引き続き「礼拝のためのヴォイス・トレーニング」を実施する。聖書朗読や司式、説教などの発声・発語訓練を行う。

6. 聖書を読むシリーズでは、入門的な聖書講座と、フェミニズムの立場からの聖書の読み直し、あるいは今日的視点からの聖書の読み方を探ることを目的としている。

7. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2016年度は各神学校の賛助を得て、第8回プログラムを実施する。

シリーズ名	回数	プログラム	予定
関東フォーラム 今日の課題 Ⅰ	全5回	「自死」に遭遇した人への慰めとは 賀来周一(キリスト教カウンセラー) セミナー相談所長	第1回6月6日(月) 第2回7月4日(月) 第3回8月1日(月) 第4回9月5日(月) 第5回10月3日(月)
関東フォーラム 今日の課題 Ⅱ	全4回	古典で読む20世紀 武田利邦(農村伝道神学校講師)	第1回5月13日(金) 第2回7月8日(金) 第3回9月9日(金) 第4回11月11日(金)

IV 関西セミナーハウス事業計画

2016 年度の関西セミナーハウス事業計画は、以下の通りである。

1. 運営方針

1) 公益目的事業の拡大

関西セミナーハウス主催の文化的プログラムを継続するとともに関西セミナーハウス活動センターや他の教育機関・学会・研究会、諸団体と連携し、その文化、教育、社会貢献活動に参画する。

2) 収益事業の展開

公益目的以外の一般利用者、企業等への宿泊及び研修施設の貸出を積極的に推進する。

3) 公益活動への貢献

2015 年度に引き続き、公益財団法人の活動を支えるために一定額を設定し、財政的な貢献を担う。

4) 有形、無形財産の活用

茶室、能舞台、日本庭園など本施設が持つ特色を生かしつつ、利用者に満足をもたらす運営に努力する。

5) 広報活動の強化

ホームページ、メールマガジン、フェイスブック、DMなどを通じて、本施設を幅広く、継続的に広報する。

6) 利用者拡大の努力

広報活動のほか、人的活動を展開し、長年、本施設が支えられているコア利用者（大学、企業、

キリスト教諸団体等）への丁寧なフォロー、新たな利用者の獲得に努力する。

7) 柔軟な料金体系の設定

適時、季節と繁忙を考慮した柔軟な料金体系を設定する。

8) 健全な収支の確保

利用者の拡大、諸費用の効率化などに取り組み、収支のバランスを整え、事業の継続性を確かなものとする。

9) 施設の更新

資金収支を改善することにより、施設改修に充てるための資金を可能な限り積立て、老朽化している施設の更新を行う。

2. 主な数値目標

1) 収入計画 (P&L ベース)

売上高 1 億 1,982 万円

営業利益 0 円

2) 設備投資

年間総額 1,200 万円

主な案件 電話交換設備避雷器設置

1 階男子トイレ改修

3 階客室改装

等

3) 宿泊者目標

上半期 5,200 名 (前年比 98.8%)

下半期 4,500 名 (前年比 106.2%)

年間 9,700 名 (前年比 102.1%)

4) 年度期首要員 14 名 (以上)

収支予算書 (損益計算方式)

(2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日まで)

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	3,000	3,000	0	
特定資産運用益	24,600	105,350	△ 80,750	
受取会費	1,481,000	1,385,000	96,000	
事業収益	129,696,740	126,932,520	2,764,220	
受取寄付金	4,315,100	3,530,000	785,100	
雑収益	501,800	338,180	163,620	
経常収益計	136,022,240	132,294,050	3,728,190	
(2) 経常費用				
事業費	143,082,965	137,817,264	5,265,701	
管理費	2,947,336	3,173,612	△ 226,276	
経常費用計	146,030,301	140,990,876	5,039,425	
当期経常増減額	△ 10,008,061	△ 8,696,826	△ 1,311,235	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 10,008,061	△ 8,696,826	△ 1,311,235	

関西セミナーハウス活動センター

●2015年度 修学院フォーラム

「エネルギーを考える」 第4回

「核」の縄目からの解放に向けて」

発題『『フクシマ』の声と国際ヒバクシヤ連帯』

NPO法人東北ヘルプ事務局長 川上 直哉さん

「エネルギー・デモクラシー

」地域からのエネルギー変革」

認定NPO法人環境エネルギー政策研究所所長 飯田 哲也さん

2016年1月10日(日)〜11日(月、祝)



関西セミナーハウス活動センターは、2011年3月11日の福島原発事故の報に接し、世論の分かれる原発を重要課題として取り上げてこなかったことの責任を感じ、原子力発電をどのように捉えるべきかを、根本に遡って真摯に考えるフォーラムを始めることにした。第1回は、2012年民間事故調査委員会委員長を務められた北澤宏一氏と、関西学院大学の神学



者栗林輝夫氏を講師に招いて開催し、その記録集も出版されたが、今や両氏とも他界され、お二人の提言は、後に続く我々の負うべき課題として遺された。今回は、その第4回である。講師に被災直後から東北の地で被災者に寄り添って歩んで来られた川上直哉牧師と、福島事故以前から原発に依存しない社会の構築を主張してこられた飯田哲也氏をお願いし

た。開会直前まで申し込みが少なく、原発事故はすでに過去のこととされ、キリスト教関係者の関心も平均的日本人のそれと異ならないのかと思わされたが、最終的には札幌や、東京、福岡などからの参加者も含め38名の方が参加して下さった。福島から京都へ避難してきておられる家族の参加もあった。

川上氏は、この5年間被災し、取り残されたと感じる人々の傍らに足を運び、その人々の苦しみの現場に「共にいさせて頂く」ように努めてこられた。放射能に不安を覚えている親御さんには、面談を行い、短期保養を行って子どもを守るために、保養のための交通費を支援してこられた。その面談は500回を越え、福島を越え、宇都宮、千葉、埼玉、東京、神奈川に迄及んだ。面談者の家族の訴える症状は、口内炎から、恒常的な発熱や空咳、頻出する鼻血、甲状腺異常、白血病にまで及んだ。政府の大丈夫だという公式発表の下でこうした不安を訴えることはばかかられ、不安を覚える人々が孤立していつている。そうした人々に対し川上氏が語ったことは、「おかあさんは、ただしい」と言うことであり、放射能被害を最小限に抑えるために、できることは何でもするようにと勧めた。かつてアメリカ北部の奴隷に対し、南部に逃れる地下鉄道が準備されたように、放射能被害から逃れる道が準備されることを夢見ると結ばれた。

これに対し、飯田哲也氏は、近年世界で自然エネルギーの発電量が急速に伸びており、2017年には風力発電による発電量が、原発による発電量を遥かに超え、太陽光発電による発電量も原発のそれに並ぶだろうと予測した。自然エネルギーの発電単価が年々安くなっているためである。世界的にエネルギー供給方式は、大規模中央独占型から、小規模地域自立型に変わってきている。デンマークでは、地域熱供給方式と風力発電の普及が進み、首都コペンハーゲンには自然エネルギー100%の街になっている。自然エネルギーで作られる電気の消費代は、地域に支払われるので地域経済を活性化させる。日本でも各地で風力や太陽光を用いた電力会社が地域の人々によって立ち上げられ、地域からエネルギー変革が進んでいる。原発推進は、もはや時代遅れの負け戦であり、自然エネルギーは、勝負の決まった勝ち戦である、と結ばれた。

福島から京都へ避難してきて来られた人が、原発は無くなるという確信が持てた、解放に向けて希望の光を見ることができた、と感想を言われたのが印象的であった。確かに早晩、原発は無くなるであろう。しかし、原発事故により汚染された、広範囲の放射能汚染は、除去される見込みも無く残り、住む所を追われた人は、帰れる見込みが無く、汚染地域に残った人は、今後も放射線障害の不安にさいなまれ続ける。事故で破損した原子炉は、その強烈な放射能を除去される目途も立たない。すでに多量に蓄積されている使用済み核燃料棒の高レベル放射性廃棄物は、安全に人の生活圏から隔離される目途も立っていない。これらは、今後も我々が負って行かねばならない課題である。

た。開会直前まで申し込みが少なく、原発事故はすでに過去のこととされ、キリスト教関係者の関心も平均的日本人のそれと異ならないのかと思わされたが、最終的には札幌や、東京、福岡などからの参加者も含め38名の方が参加して下さった。福島から京都へ避難してきておられる家族の参加もあった。川上氏は、この5年間被災し、取り残されたと感じる人々の傍らに足を運び、その人々の苦しみの現場に「共にいさせて頂く」ように努めてこられた。放射能に不安を覚えている親御さんには、面談を行い、短期保養を行って子どもを守るために、保養のための交通費を支援してこられた。その面談は500回を越え、福島を越え、宇都宮、千葉、埼玉、東京、神奈川に迄及んだ。面談者の家族の訴える症状は、口内炎から、恒常的な発熱や空咳、頻出する鼻血、甲状腺異常、白血病にまで及んだ。政府の大丈夫だという公式発表の下でこうした不安を訴えることはばかかられ、不安を覚える人々が孤立していつている。そうした人々に対し川上氏が語ったことは、「おかあさんは、ただしい」と言うことであり、放射能被害を最小限に抑えるために、できることは何でもするようにと勧めた。かつてアメリカ北部の奴隷に対し、南部に逃れる地下鉄道が準備されたように、放射能被害から逃れる道が準備されることを夢見ると結ばれた。これに対し、飯田哲也氏は、近年世界で自然エネルギーの発電量が急速に伸びており、2017年には風力発電による発電量が、原発による発電量を遥かに超え、太陽光発電による発電量も原発のそれに並ぶだろうと予測した。自然エネルギーの発電単価が年々安くなっているためである。世界的にエネルギー供給方式は、大規模中央独占型から、小規模地域自立型に変わってきている。デンマークでは、地域熱供給方式と風力発電の普及が進み、首都コペンハーゲンには自然エネルギー100%の街になっている。自然エネルギーで作られる電気の消費代は、地域に支払われるので地域経済を活性化させる。日本でも各地で風力や太陽光を用いた電力会社が地域の人々によって立ち上げられ、地域からエネルギー変革が進んでいる。原発推進は、もはや時代遅れの負け戦であり、自然エネルギーは、勝負の決まった勝ち戦である、と結ばれた。福島から京都へ避難してきて来られた人が、原発は無くなるという確信が持てた、解放に向けて希望の光を見ることができた、と感想を言われたのが印象的であった。確かに早晩、原発は無くなるであろう。しかし、原発事故により汚染された、広範囲の放射能汚染は、除去される見込みも無く残り、住む所を追われた人は、帰れる見込みが無く、汚染地域に残った人は、今後も放射線障害の不安にさいなまれ続ける。事故で破損した原子炉は、その強烈な放射能を除去される目途も立たない。すでに多量に蓄積されている使用済み核燃料棒の高レベル放射性廃棄物は、安全に人の生活圏から隔離される目途も立っていない。これらは、今後も我々が負って行かねばならない課題である。

平林 喜博	細井 敏子	佐治 孝典	島田 恒
山岡 義生	殿村 元一	姫野 真知夫	日本基督教団希望ヶ丘教会
大下 道	真鍋 裕子	酒井 哲雄	在日大韓基督教 京都教会
岡安 茂祐	岸田 晃子	田沼 大典	山添 みどり
白子 宗令	福留 順子	松原 千里	原田 博充
長塩 滋子	多木 秀雄	中村 信博	日本基督教団平安教会
浅田 凉子	高寺 幸子	宮庄 哲夫	日本基督教団倉敷教会
林 律	木下 寿子	比嘉 美智子	エネルギープログラム
千葉 由紀子	中西 和樹	特定非営利活動法人	など寄付金
黒田 睦子	椿本 博久	沢内伯楽	松田 光代
大久保 由美子	高橋 壮二	榎本 栄次	小久保 正
魚木 アサ	奈倉 道隆	織田 雪江	大島 順子
中山 晴美	相浦 和生	中島 健二	早川 良彌
岩坂 二規・泰子	中村 信博	根岸 宏邦	善本 美都子
木原 諄二	桜井 希	シュベネマン クラウス	井上 勇一
酒井 哲雄	都木 かおり	高畑 恵子	大谷 光真
橘 俣子	比嘉 美智子	井上 勇一	喜多村 やよい
北風 照子	小林 裕一	野田 純一	匿名
シュベネマン クラウス	丸山 まり子	柳井 繁彌	今井 奈都子
飯田 ふみ子	小澤 妙子	松本 文江	加藤 聡子
浅川 具美	伏木 信次	木田 みな子	谷村 禎一
鳥井 清司	金山 顕子	佐藤 真弓	開発教育セミナー寄付金
森 正幸	川北 かおり	日本基督教団天満教会	金山 顕子
榎本 璋子	網野 俊賢	日本基督教団紫野教会	もみじまつり寄付金
河本 有紀子	大島 順子	日本キリスト教団宇治教会	芝原 緋佐子
内藤 弘子	中上 卯一郎	網野 俊賢	横野 朝彦
手銭 秀夫	井上 勇一	金山 顕子	八田 一郎
大森 正子	田中 常雄	山本 知恵	佐藤 厚子
宮田 満雄	鈴木 正穂	中西 典彦	株式会社柴橋商会
新井 正治	柳原 清美	中西 綾子	株式会社こころ
田辺 信子	白方 誠彌	水嶋 保	八田 尚嘉
岡山 孝太郎	宇井 裕美	島田 恒	中村 宗恭
喜多村 やよい	小山 稔	日本基督教団京都教会	シュベネマン クラウス
梅山 猛	西岡 裕芳	クリスマス寄付金	大野 邦久
春名 康範	山本 貴之	日本キリスト教会吉田教会	白子 宗令
陶村 世佳子	佐藤 優	日本基督教団世光教会	安住 宗住
医療法人わたなベクリニック	中西 典彦	千里山キリスト教会	林 宗一郎
五十嵐 万里子	浦 晴子	福留 順子	松本 圭子
菅 恒敏	北垣 宗治	神戸ドイツ語教会	デロイトトーマツ税理士法人 京都事務所
新宗連大阪事務所	上條 美代子	岡野 彩子	浅田 凉子
生田 茂夫	平野 正	小久保 正	三原工務店 北迫巴智夫
公益財団法人京都YMC A	多田出 佳代子	椿 邦良	長谷川 義紘
松田 光代	日高 正宏	川北 かおり	株式会社祇園辻利
大谷 光真	李 善恵	宮庄 哲夫	中村泰洋園 中村英明
根岸 宏邦	寄付金	西川 和江	株式会社藤木工務店
島田 誠一	平林 喜博	田中 義信	鳥井 清司
竹中 百合子	小久保 正	公益財団法人京都YMC A	島田 恒
岡野 彩子	日本基督教団長岡京教会	松尾 光雄	喜多村 やよい
早川 良彌	新井 正治	佐藤 友紀	井上 勇一
植村 敏子	北野 宗香	網野 俊賢	大下 道
關岡 一成	中井 博雅	椿本 博久	魚木 アサ
岩崎 裕保	株式会社こころ	日本基督教団経堂緑岡教会	小林 哲夫
古賀 暢子	藤倉 寿美子	今井 奈都子	社会福祉法人修光学園
藤井 伸枝	早川 良彌	日野 多栄子	山口 務
織田 雪江	山岡 義生		宮本 桂子
井上 和子	小崎 眞		
	山添 みどり		
	遠藤 勇		

2015年度賛助会費・寄付金納入者ご芳名

2015年4月1日～2016年3月31日(順不同・敬称略)

ご支援に感謝申し上げます。

財団本部	渡辺 真知子	農村伝道神学校	宮崎 信行
終身会員	服部 千賀子	聖公会神学院	武藤 高司
神保 正男	松浦 茂長	公益財団法人 早稲田	21世紀会
神保 信子	森野 善右衛門	奉仕園	牛尾 宣夫
中井 博雅	竹政 志郎	小久保 正	森口 克洋
小久保 正	蔭山 淳	日本聖書神学校	小久保 正
野田 純一	椿 邦良	関田 寛雄	長谷川 義紘
島田 恒	松本 敏之	市川 邦雄	平野 正
寄付金	公益財団法人 早稲田	宮本 旻祐	山崎 満
竹中 百合子	奉仕園	高畑 昭久	岡本仁彦・泰子
武藤 高司	寄付金	川北 かおり	中村泰洋園 中村 英明
日本基督教団早稲田教会	服部 千賀子	坂口 みどり	井上 康三郎
島田 恒	橋口 仁	春名 康範	奥田 正義
横野 朝彦	匿名	成岡 宏晃	初田 勝
こまち会	中井 博雅	藤倉 寿美子	山内 博
中村 信博	中島 健二	松井 直樹	株式会社アイウィル
鳥井 清司	木岡 毅	荒井 献	株式会社京都スタッフ
小久保 正	大澤 英二	古賀 暢子	櫻楓会
神保 正男	石川 憲彦	小沢 英輔	大原 松雄
中井 博雅	林 律	手銭 秀夫	TMI 総合法律事務所
シュベネマン クラウス	加藤 真規子	横野 朝彦	津田 友一
土井 健司	伊藤 百合子	高德 芳忠	上野塗工株式会社
関東活動センター	宮本 旻祐	日本基督教団長岡京教会	廣田 吉久
賛助会費	松原 悦子	島田 治夫	野嶋 和雄
手島 毅郎	谷津 慎子	戒能 信生	株式会社ビーテック
大橋 祐治	木下 庸子	萩原 好子	有限会社エヌアール企
吉田 豊	飯沼 和正	斎藤 宏	画
長沢 美沙子	日本基督教団番町教会	恵泉女学園中高・宗教部	一般財団法人日本ド
大坪 正雄	クリスマス寄付金	松本 敏之	リームボード財団
徳久 俊彦	郡山 千里	日本基督教団鹿児島加	ワケンホールディング
木岡 毅	木岡 毅	治屋町教会	ス株式会社
立原 敬一	関田 寛雄	上原 秀樹	株式会社レックラ
松岡 俊彦	藤 知佳	柳下 明子	ヴィファクトリー
犬飼 護郎	神保 信子	神保 正男	京都音楽教育の会
松島 美一	石橋 光朗	吉田 豊	ジ・エアーズ 菅原直人
千葉 拓司	藤谷 正一	西南学院	菊岡 克彦
西浦 昭英	小林 誠治	関西学院大学神学部	土田商店
高橋 浩	中井 博雅	加藤 真規子	株式会社祇園辻利
平野 正	椿 邦良	上林 順一郎	佐藤 優
市川 邦雄	飯田 庸子	外谷 悦夫	関西セミナーハウス活
道正 洋三	上林 順一郎	中西 綾子	動センター
中井 博雅	日本基督教団市川三本	同志社大学神学部	賛助会費
石山 聆子	松教会	日本基督教団早稲田教会	立石 昭三
武藤 陽一	鈴木 伶子	並木 浩一	福岡 誠之
斉藤 宏	日本基督教団神戸栄光	汐碓 直美	田中 潤治
横野 朝彦	教会	関西セミナーハウス	久保田 暁一
石川 憲彦	在日大韓YMCA	寄付金	高谷 泰市
桃井 明男	神学生交流プログラム	岡林 功	塚本 誠一
飯島 隆輔	松原 千里	片桐 英彦	斉藤 洋子
島田 治夫	吉崎 聆子	首藤 忠平	医療法人八田内科医院
松本 誠	井口 拓人	杉本 紘彦	山本 貞子
ランデス ハル	大橋 祐治	釣 昭夫	佐藤 友紀
伊藤 博子	浦上 充	中井 博雅	佐野 千枝子
竹中 百合子	千葉 拓司	三木 卓雄	松岡 蓉子

プログラム案内

◆関東活動センター

■聖書講座 2016「新しい聖書の学び」

「いのちの糧の分かち合い」(全 9 回)

講師：山口里子さん (日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：2016年4月～2017年1月(8月除く)第2火曜18:30～20:00
②5月10日、③6月14日

会場：早稲田奉仕園スコットホール

参加費：1,200 円/学生 500 円

テキスト：『いのちの糧の分かち合い いま、教会の原点から学ぶ』新教出版社

共催：早稲田奉仕園

■2016 関東フォーラム 今日的課題 II

「古典で読む 20 世紀第 III 期」(全 4 回)

第 1 回「超国家主義の論理と心理」

ファシリテーター：武田利邦さん (農村伝送神学校講師)

日時：2016年5月13日
18:30～20:30

会場：日本キリスト教会館 6 階

フォークトルーム
参加費：500 円/4 回 1,500 円
テキスト：丸山真男「超国家主義の論理と心理」(『丸山真男セレクション』平凡社ライブラリー)

■月釜 清心会

日時：2016年4月10日(日)、5月8日(日)
9:00～15:00 受付 (1、8 月を除く年 10 回)

於：関西セミナーハウス
年会費：5,000 円、臨時会費 1,000 円

◆関西セミナーハウス活動センター

■2016 年度修学院フォーラム「いのち」

第 1 回「いのちを見つめて～介護百人一首～」

講師：安森 敏隆さん(同志社女子大学名誉教授)

日時：2016年4月23日(土)
13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス
参加費：一般 2,300 円、学生 1,000 円

第 2 回「花と音楽のコラボレーション～いのちをめぐるメッセージ」
講師：竹中 真さん(ピアニスト、作曲家)

日時：2016年5月21日(土)
13:30～15:30

会場：関西セミナーハウス
参加費：一般 2,300 円、学生 1,000 円
お茶代 500 円

上記終了後 16:00～17:30 お茶代 500 円

■2016 年度お茶のこころと宗教のこころ

第 1 回「初夏の茶室とバスで巡るフィールドツアー <2> 京都のキリシタン史跡を訪ねて<西ノ京エリア>」

講師：杉野 榮さん(日本パテント連盟京都洛西教会協力牧師)

日時：2016年6月18日(土)
10:00～17:00

会場：関西セミナーハウス
参加費：一般 8,000 円 (抹茶、昼食、バス代負担分、保険代含む)

定員：20 名

東 西 南 北

◎関西セミナーハウス活動センター
榎本 栄次、所長、4 月 1 日付で就任しました。

財団本部

http://www.academy-nippon.com

関東活動センター

http://www.academy-tokyo.com

関西セミナーハウス

http://www.kansai-seminarhouse.com/

関西セミナーハウス活動センター

http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館 6 F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

宿泊研修施設

関西セミナーハウス <修学院きらら山荘>

～四季折々の自然に囲まれた、静かな環境～

各種セミナー、会議、合宿、修養会、ご宿泊などにご利用ください。
個人様でもご利用いただけます。

大小 5 つの会議室、茶室、能舞台があります。駐車場無料。

お問い合わせはフロントまで。 TEL 075-711-2115(代)

賛助会費・寄付金報告

2016 年 2 月 1 日～3 月 31 日

(順不同・敬称略)

◆関東活動センター
賛助会費

早稲田奉仕園 300,000
立原 敬一 5,000

寄付金 (クリスマス寄付金を含む)

日本基督教団神戸栄光教会 10,000
日本基督教団番町教会 10,000
在日大韓 Y M C A 10,000

神学生交流プログラム募金

加藤 真規子 3,000
上林 順一郎 10,000
外谷 悦夫 5,000
中西 綾子 3,000
同志社大学神学部 40,000
早稲田教会 50,000
並木 浩一 50,000

◆関西セミナーハウス活動センター
賛助会費

中西 典彦 5,000
浦 晴子 5,000

北垣 宗治 5,000
上條 美代子 10,000
平野 正 5,000
多田出 佳代子 5,000
日高 正宏 10,000
李 善恵 5,000

寄付金

根岸 宏邦 10,000
日本基督教団紫野教会 4,000
日本キリスト教団宇治教会 3,000
網野 俊賢 6,900
織田 雪江 2,700
金山 顕子 6,300
山本 知恵 4,020
中西 典彦 5,000
中西 綾子 3,000
水嶋 保 5,000
島田 恒 10,000
日本基督教団京都教会 5,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。